

新型コロナウイルス感染症について



長期間の休業や新型コロナウイルス感染拡大が続く中、生徒の皆さんは、自らの安全を守ることはもちろん、社会の一員として「感染しない、感染させない」という考えのもと、一人ひとりが、感染予防のための行動を心がけて欲しいと思います。

新型コロナウイルス感染症とは

ウイルス性の風邪の一種です。発熱やのどの痛み、咳が長引くこと（1週間前後）が多く、強いだるさ（倦怠感）を訴える方が多いことが特徴です。

新型コロナウイルスは、飛沫感染と接触感染によりうつると言われています。

飛沫感染	感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つばなど）と一緒にウイルスが放出され、他の人がそのウイルスを口や鼻などから吸い込むことで感染します。
接触感染	感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスがつきます。他の人がその部分を触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ることで粘膜から感染します。



重症化すると肺炎となり、死亡例も確認されているので注意しましょう。

休業中の生活について 一人ひとりができる感染を防ぐための行動は・・・

- * まずは手洗いが大切です。外出先からの帰宅時や食事の前、トイレ後などにこまめに石鹸で洗うかアルコール消毒液などで手をしっかり消毒しましょう。
- * 咳などの症状がある人は、咳やくしゃみを手で押さえると、その手で触ったものにウイルスが付着し、ドアノブなどを介して他人に感染させる可能性があります。正しいマスクの着用を含む咳エチケットを守りましょう！
- * 休業期間中は自宅で過ごすことをこころがけましょう。
- * 健康チェック表等を利用しながら健康管理につとめ、発熱等の風邪症状がある場合には直ちに学校に連絡してください。*チェック表は本校ホームページよりダウンロードできます
- * 37.5℃以上の発熱が4日以上続いていることを把握した場合や、発熱が4日以上続かない場合でも、乾いた咳が出る、または味やにおいがわからない、強いだるさや息苦しさなどの異常を感じた時はまずは外出しないととも直ちに「帰国者・接触者相談センター」（各地域の保健所）に相談しましょう。
- * やむを得ず外出する際は3密（換気の悪い密閉空間）（多くの人が密集）（近距離での会話や発声）を徹底的に回避しましょう。
- * 免疫力を高めるために、十分な睡眠、適度な運動、バランスのとれた食事にごこころがけましょう。
- * 不安や心配事がある人は一人で悩まず、家族や学校に相談してください。

☆ 一般的な相談は、かかりつけ医、もしくは「新型コロナウイルス感染症専用相談ダイヤル（055-223-1477）」へ

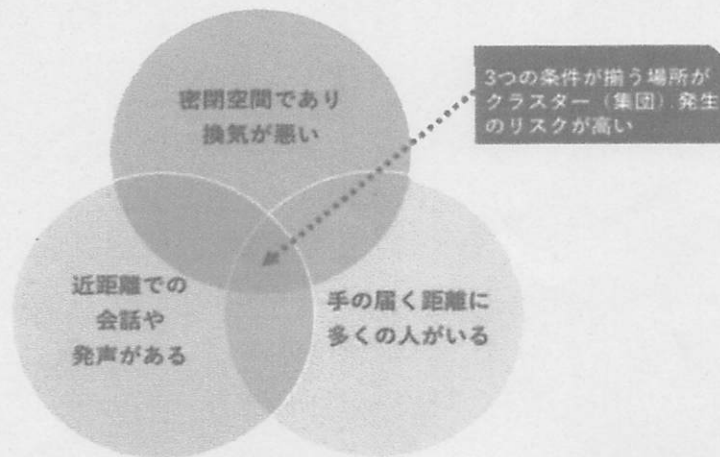
☆ 新型コロナウイルス感染が疑われる場合は最寄りの保健所内もしくは中北保健所（055-237-1403）内の「帰国者・接触者相談窓口」へ。

クラスターという言葉をよく耳にすると思います。厚生労働省が示している日常生活における考え方を抜粋したものです。今、各自ができる対策の参考にしてください

新型コロナウイルスに対する地域での対策として、クラスター（集団）の発生を防止することが重要です。これまで感染が確認された場に共通するのは、①換気の悪い密閉空間、②人が密集していた、③近距離での会話や発声が行われた。これら3つの条件が同時に重なった場です。

これら3つの条件がすべて重ならないまでも1つないし2つの条件があれば、何かのきっかけに3つの条件が揃うことがあります。例えば、満員電車では、①と②がありますが③はあまりなされません。しかし、場合によっては③が重なることがあります。また、一連の活動のなかで多くの時間は3つ条件が揃わなくても、あるときにはそうした機会があることがあります。例えば通常の野外スポーツをしている際には3つの条件は揃いませんが、着替えやミーティングにおいては①から③の条件が重なることがあります。そのため、3つの条件ができるだけ同時に重ならないようにすることが対策となります。

また、上記の条件の他に、共用の物品を使用していたという場面もあります。こうした状況では接触感染がおこる場合があります。これまで、換気の悪い閉鎖空間で人が近距離で会話や発語を続ける環境、例えば、屋形船、スポーツジム、ライブハウス、展示商談会、懇親会等での発生が疑われるクラスターの発生が報告されています。



【クラスター（集団）の発生のリスクを下げるための3つの原則】

- 1 換気を励行する:窓のある環境では、可能であれば2方向の窓を同時に開け、換気を励行します。ただ、どの程度の換気が十分であるかの確立したエビデンスはまだ十分にありません。
- 2 人の密度を下げる:人が多く集まる場合には、会場の広さを確保し、お互いの距離を1~2メートル程度あけるなどして、人の密度を減らす。
- 3 近距離での会話や発声、高唱を避ける:周囲の人が近距離で発声するような場を避けてください。やむを得ず近距離での会話が必要な場合には、自分から飛沫を飛ばさないよう、咳エチケットの要領でマスクを装着するかします。

これらに加えて、こまめな手指衛生と咳エチケットの徹底、共用品を使わないことや使う場合の十分な消毒は、感染予防の観点から強く推奨されます。